

## 大野市子ども・子育て会議（第2回）会議結果の概要

日 時 令和3年3月17日（水）午後7時～午後8時20分

場 所 結とびあ 302号室

### 1 会長あいさつ

青井会長より

### 2 議 事

(1) 令和3年度保育所等の利用定員について

資料1

【説明】資料1に基づき、事務局説明

【意見等】

- ・増減の状況は。
  - 1園は近年の入所児童数の状況を見て、もう1園は4月入所時点での申し込みが100%を超える見込みであることから、4月時点で定員を上回ることをしないようにした。
- ・定員の件はよいが、入所を希望していない児童はどれくらいいるか。各家庭でみているということか。
  - 母親の育児休業が終了したら保育所等に入所させる保護者が多い。特に0歳児の入所率が年度末で60%を超える状況になっている。それを踏まえると40%くらいの児童が家庭で育児されているのではないかと考えている。1歳児については約8割が入所、2歳児以上についてはほぼ100%入所している。お家でみているのは0・1歳児になる。
- ・1年間の出生数は200人を割っている。そのうちの40%が家にいるということか。
  - 率で言うとそうなる。県も本市も共働き家庭が多いため、育児休業から復職するタイミングで子どもを預ける家庭が多いという認識である。
- ・そのことを考えながら定員を考えているのか。
  - 第2期の計画では、まず出生数を見込み、年度末の一番高い入所率をかけて数を出している。実際の入所率が計画時よりも高くなった場合、定員を超える可能性もあるが、その場合は、施設基準、保育士配置基準を満たした上で適正に対応したい。
- ・計画の量の見込みは達しているのか。下回るということではどうか。
  - 計画における令和3年度の保育認定の量の見込みは1,028人であるが、年度末には超える可能性はある。国が認める基準に従い適正に対応する。
- ・計画で見込数が出ているのに定員を減らすことは厳しいのではないか。見込数を満たしていればよいが。
  - 市全体で考えると委員のおっしゃるとおりである。但し、民間の保育士確保等の実情を鑑みた。
- ・2園から定員の変更があった件はそのとおり変更としてよいか。
  - よい。

(2) 令和2年度大野ですくすく子育て応援パッケージの施策の進捗について

資料2

【説明】資料2に基づき、事務局説明

【意見等】

- ・ だいたい計画通りという状況でよいか。  
→コロナの影響で中止となった事業もある。中止にするか、感染拡大防止策をとりながら実施するか事業ごとに判断している。
- ・ 年度初めの実施事業は中止せざるを得なかった事業が多いと思うが、年間通しての事業の場合は、後半はコロナ対策をとりながら実施されたように思うがそれでよいか。  
→保育料の減免や産婦健診助成は、既に利用されている方を対象としているため、そのような類いの事業は実施できている。産後ママの家事援助や一時預かりは、土地柄もあり利用率が低い。来年度は、利用者の声を届けられるとよい。チャイルドシートは、予想よりは少し少ないので検討を加えられるとよい。
- ・ 計画には、来年度（3年度）のことは掲載されていないので、今年度を振り返り来年度の方法、こんなやり方だったらできるなど、来年度の会議でお示ししていただくと今後の見通しもできるのではないかと。中止になった取り組みも来年度の実施について示していただけるとよい。

(3) 令和3年度子ども・子育て支援にかかる新規・拡充事業について

資料3

【説明】資料3に基づき、事務局説明

【意見等】

- ・ フッ素塗布の1歳6ヶ月健診での取り組みだが、幼児の虫歯保有率はどれくらいか。  
→数値は持ち合わせていないが明らかに他市と比べて高い。
- ・ 原因は。  
→1歳6ヶ月、3歳児までは高くないが、その後が高くなっている。
- ・ 小さい頃からフッ素塗布すると効果は期待できるのか。  
→効果があると報告されている。
- ・ 支援センターのリモート相談の反響や利用は。  
→2人から相談を受けた。1人目の方からは、下の子どもの夜泣きについてであったが、保育士と顔を見合わせながら相談できて良かったとの感想。2人目は県外から大野市へ転入するに当たり、子どもの保育所入所の件など保育に関する相談を受けた。
- ・ いろいろな方法での相談ができることは保護者にとって選択肢が増えよい。

(4) その他

(事務局)

- ・ 4月から機構改革により、教育委員会へ移ることになり、課名もこども支援課となる。本会議も市長の附属機関から教育委員会の附属機関になる。委員の任期は7月1日までであるのでよろしくお願ひしたい。事務室はこれまでと変更はないため、市民の方からの相談もこれまでどおりの手続きでできる。

(会長)

- ・ 教育委員会所属になる目的は。  
→ これまでも教育委員会と連携を凶っていたが、子育て支援については、出生から義務教育まで切れ目のない支援がさらに強化してできる。
- ・ これまで以上に行政の中で協働ができるということで認識した。

### 3 閉 会

杉原副会長より